科学研究費補助金研究成果報告書

平成 21年 5月 29日現在

研究種目:基盤研究(C) 一般

研究期間:2006~2008 課題番号:18592445

研究課題名(和文) 児童虐待予防のための地域ペアレンティング・プログラムの

評価に関する研究

研究課題名(英文) Research on evaluation of community based parenting program for

prevention of child abuse and neglect.

研究代表者

柳川 敏彦 (YANAGAWA TOSHIHIKO)

和歌山県立医科大学・保健看護学部・教授

研究者番号:80191146

研究成果の概要:

虐待予防の観点から、子育て支援の家族介入プログラムであるトリプルPの有用性を検討した。和歌山(15名)、大阪(20名)、摂津(25名)に在住する2歳から5歳の子どもをもつ母親を対象にグループ・トリプルPを実施した。親が報告する子どもの困難な行動(SDQ)、親の子育てスタイル(PS)、親の抑うつ、不安、ストレスなどの精神状態(DASS)、親の子育ての自信(PSBC)、夫婦間の関係の質と満足度(RQI)、夫婦間の意見の衝突の程度(PPC)、親の子どもへの不適切な行為(JM)の7種類の質問票を用いて、介入前後、介入前と介入3か月後、および待機後の変化を比較した。結果、介入群(n=60)で5つの質問票(SDQ、PS、DASS、RQI、JM)で有意な介入効果が得られ、介入3か月群(n=37)で4つの質問票(SDQ、PS、RQI、JM)で有意な持続効果を認めた。

交付額

(金額単位:円)

			(35 B)(1 15 - 14)
	直接経費	間接経費	合 計
2006 年度	2, 600, 000	0	2, 600, 000
2007 年度	400, 000	120, 000	520, 000
2008年度	700, 000	210, 000	910, 000
年度			
年度			
総 計	3, 700, 000	330, 000	4, 030, 000

研究分野:医歯薬学

科研費の分科・細目:看護学 地域・老年看護

キーワード:①児童虐待・②ペアレンティング・③ランダム化比較実験

1. 研究開始当初の背景

児童虐待は被害者である子どもはもちろん、家族にも深い心の傷を与え、その後のケアは容易ではないことから、早期発見および予防に有効な子育て支援が望まれている。1970年代から児童虐待が深刻な社会問題となっている欧米諸国では、1980年前後より親の育ちを支援する様々なプログラムが子育てへの教育的介入手段として実践され、ペアレン

ト・トレーニングあるいは、ペアレンティング・プログラムと呼ばれている。オーストラリア、クィーンズランド大学サンダースによって開発されたトリプルP(ポジティブ・ペアレンティング・プログラム)は、「前向き子育てプログラム」と呼ばれ、従来、評価が困難であった育児・子育ての領域に無作為化比較試験を用い、20数年にわたる実証的研究を重ね発展したプログラムである。

2. 研究の目的

虐待予防の観点から、文化の違いを超えて わが国の複数の地域おいて、育児支援プログ ラムであるトリプルPの評価を行うことを目 的とする。

3. 研究の方法

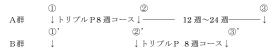
(1)対象と研究デザイン

和歌山市および大阪全域、摂津市に在住の 2歳~5歳児をもつ親を対象とした。なお、3 地域の子どもの年齢、性別比、子どもの人数、 養育者(母親)の年齢について表1に示す。

表1.3地域の対象者の属性

		回答者数	子どもの年齢		子ども性別	ども性別 子どもの同胞の)数(本人含む)		母親の年齢	
		凹古名數	平均	SD	男子の割合	1人	2人	3人	4人	平均	SD
	和歌山 A群	15	5.23	1.64	50.0%	35.7%	50.0%	14.3%	0.0%	34.31	2.87
	編期间	Ű4) S	1/48	P57.20	夷腿	78.6%	2141	0.0	55.86	√3.44
質	中學和	空 联	4.40 2	#35s. J	開待	機	40.0%	20後	(0.0%)	, 3 71.3 10 -	7 2.95
il.	大阪全域」B群,	1/11/1	420 /	上1476:	HY7994 6	20,0%	,60,0%	20,0%	9.0%	35.10	s (1.73
<i></i>	撰 A群 大	,	(4.tr 1	J255	P+66.7% 2	58.3%	25.0%	J _{8.3%}	/8:3%°	37.75	3.52
報	瞬夢る	F F	海() May 1	维46余个	顶瓤	53(8)	₩	Ø.0%	巍	∕3.04
子	育てス	タイ	ル	(PS)、親	[の	抑う	つ、	、不	安、	
ス	トレス	なと	ご の精	青神岩	犬態 (DA	SS) 🗦	親の)子;	育
て	の自信	(P_{s}^{s})	SBC)、=	夫婦間	の	関係	(D)	質と	満	足
度	(RQI)	、夫	婦間	の意	気見の	衝夠	足の	程月	隻(]	PPC	")
親	の子ど	€ ^	の オ	適	刃な行	r為	(J)	M)	\mathcal{O}	7 ₹	重
類	の質問	票を	用ル	いて、	介入	前	後、	介	入育	うとか	介
入	3 か月	後、	およ	び往	寺機後	の	変化	ごを.	比較	えしが	た
(<u>></u>	$(1)_{\circ}$										

図1:研究デザイン



注)①②③、①'②'③'で同じ 質問票を繰り返し実施する

(2) プログラム (トリプル P) の方法

幅広い子育で問題に対応するレベル4のグループトリプルPを介入手段とした。1グループは、 $8\sim13$ 人で構成され、それぞれの地域で計2回ずつトリプルPを施行した。具体的には、1セッション(2時間)を週1回で、教材にワークブック、ビデオまたはDVDを使用し、前向き子育ての考え方、子どもの行動記録ための講義、および対応スキル習得のための講義、および対応スキル習得では、かのロールプレイを行う。第 $5\sim7$ 週では、電話セッションにより子育てスキルの実施状況の確認や改善策を話し合い、第8週でありとまとめを行う。なお、プログラムを

提供するトリプルP事務局は、実施の標準化のためファッシリテーター養成ワークショップを定期的に実施している。この養成ワークショップの参加者に認定試験を行い合格したもののみがプログラム実施が可能である。

(3) 質問票

家族の構成など基本属性に加えて、以下の7種類の調査票を1冊の冊子にまとめた。和歌山、大阪は3回とも郵送により回収し、摂津は初回、説明会場で記入を行ったが、2回目以降は郵送により回収した。記載所要時間は、30~60分であった。

【子どもの関すること】

①子どもの問題行動に対して、親が感じる難しさ(SDQ: Strengths and Difficulties Questionnaire, 25 項目):SDQ は、3~16 歳の子どもの社会的に好ましい行動と難しい行動に対する親の認識を測る行動審査尺度である。5 領域(感情的症状、行為問題、不注意/多動、交友問題、社交的行動)について評価を行う。各領域の最低スコアが 0 で、最高スコアが 10 である。難しい行動の総合スコアは社交的行動スケールを除く4スケールのスコアを合計することで計算され、社交的行動は好ましい行動(長所)として評価される。

【親に関すること】

- ② 親 の 子 育 て ス タ イ ル (PS: Parenting Scale, 30 項目): PS は、3 つの子育てタイプ、「手ぬるさ」(寛容すぎるしつけ)、「過剰反応」(権威主義的なしつけ、怒り、意地悪さ、短気を面に出す、)「多弁さ」(過剰に長い叱責、または話しに頼る方法) および総合スコアを評価する (表 2-②)。
- ③親の子育て適応感=精神状態 (DASS: Depression Anxiety Stress Scales, 42 項目): DAS は、大人の抑うつ、不安、ストレスの症状を測る尺度である。各 3 スケールの最低スコアが 0 で、尺度の最高スコアが 42 である。
- ④親の子育てに関する自信の程度 (PSBC: Problem Setting and Behaviour Checklist, 28項目): PSBC は、親の子育てに関する自信の程度を測定する尺度である。

【夫婦間、パートナーとの関係に関すること】

⑤パートナーとの関係についての満足度 (RQI: Relationship Quality Index, 6 項目): RQI は、パートナーとの関係の質と満足感を示す指標である。初めの5項目は7点スケールで計られ、関係の幸福度の包括的評価は10点スケールで測られる。総スコアは6、最高スコアは45で、高得点になるほどより前向きな関係を示す。極端に低いスコアは、

将来共にすごす時間の短さと、関係を終わらせる話し合いの回数の多さに関連する。29以下のスコアは、ストレスのある関係を示す。⑥両親間での子育てに関する意見の衝突の程度(PPC: Parent Problem Checklist 16項目): PPCは、子どもの問題行動に対するきまりとしつけに関しての親の意見の相違の程度を探る。意見の相違の領域の数を足し、5以上のスコアは援助すべき対象とみなされ、プログラムの前後で、どの程度改善されたかを評価する。

【虐待(不適切な関わり)の行為に関すること】

「親の子どもに対する不適切な行為の状況(JM: Japanese version of Maltreatment、17項目): JMは、子どもの虐待防止センターにより作成されたものである。養育者の子どもへの、身体的、心理的、放置・怠慢などの17項目の不適切な行為について、「しばしばある」、「たまにある」、「たまにある」を 2 点、「まったくない」の 4 段階の質問を質問した。分析はおいて、「しばある」を 1 点、「まったくない」を 0 点とする 3 段階法と、「しばしばある」を 1 点、「まったくない」を 0 点とする 4 段階法の 2 つの方法で分析した。

(4) 解析方法

3 地域における A 群、B 群の群間比較において質問票の結果は、スコアの平均値と標準偏差で示し、プログラム前後の比較は、ペアード t 検定を行った。いずれの検定も P<0.05を有意な差があるとした。

(5) 倫理的配慮

個人情報の取り扱いに十分な配慮を行うこと、回答の内容は個人が特定されないよう匿名化、数値化して扱うこと、結果については研究目的以外に使用することがないこと、また個人ではなく集団として結果を公表することを文書にて説明し、同意を得たものを調査対象とした。

4. 研究成果

3地域をまとめた質問票の結果を示す。 (1)介入群の結果:和歌山A群の15名、大阪A群(初回と2回目の比較)および大阪B(初回と3回目)の20名、摂津A群(初回と2回目の比較)および摂津B(初回と3回目)の25名の総数60名について、7つの質問票の結果を示す。なお、JMの質問票は、摂津(25名)の結果である。1)SDQ合計、2)PS総合スコア、3)DASS合計、5)RQI、7)JMの5つの質問票で、有意な改善が得られた(表2)。

表 2. 介入群の結果

	和歌山A+大	、阪A,B	介	八前	介	後	ns:有意差なし
	+摂津A,B	n=60	平均	標準偏差	平均	標準偏差	*p<0.05, **p<0.01
子	1)SDQ:因	推度合計。	12,95	, 5,1,9.	_9,28_	6.59	**
(2)	2)P\$T秘格		3.63:	▽0 級 F	ももり)	16744	、控編 B
群	3DBASEA	働計 23	4180	御果る	と探ります	_ 17 .7 7 <	の質問
画	#P\$BC~	1 🗔	<u>29</u> 1.95.	o47 ,0 8 ⊨	<u>214</u> .04 ;	713 8/901	ナシレ 187
ᆂ	5)RQL	4 / 7 / 7 /	29.80	_ 9.90 L	35.20		**
幕	事産に	・話めりり) 41.4g/S	/13 <u>8</u> 89 /	- 4.齊。	5 <i>)</i> 4:19	ns
虐待	7)JM (摂津	A+B n=25)	7.64	5.59	5.87	5.20	*

表 3. 待機群の結果

大阪B +摂津B	10]目	20]目	ns:有意差なし
n=23	平均	標準偏差	平均	標準偏差	*p<0.05, **p<0.01
,子、1)SDQ:困難度合計	. 11.91	4.37	10.35	5.16	ns
(3)2ms.総合文コケ月	发3.67 新	F表1:	木13.2007 [□ 0:89君羊	15 ‰、
親 3分A&S飛計∩ 夕	164年》	±17434E Y	12,59/2	/6日	37 夕吟
APSBC	203,30	49.70	222.41	37,28	ns
便關係小 9。」)29.86d	早1.96~	34.88 ¹	98.98 ^[]	クユ _{ns} 、
5時 ROQEC、7)JM の	45:1D $ heta$)質問	熏底、	有意	な改善、
点待。FJM(摄建B级孙俱3)) J. 18 26/2	N-E.79(`)	乙掛わ	76.21°≢	£ 4) ns

表 4. 介入 3 ヵ月後の結果

和歌山A+大阪A+摂津A	介	八前	介	後	ns:有意差なし
n=37	平均	標準偏差	平均	標準偏差	*p<0.05, **p<0.01
子、1)SDQ:困難度合計,	13.59	⊒ 5.60 1.	,12,88	£6.18	*
(42)PS: 総合スコア 一)	7.67	17 9 79 ⊂	13.20年	⁵ ,0.91	* //
親棚路路上掛計	20/89	/\$0.6H	(200 0)5	24.22	では _{ns} 終
了咿\$ECプログラ	£204\08 <u></u>	体5.850>	拿佣9性	: A5.8萬	足度を
調機Uた	⊞29:69	(8)51 ~	-34.74. S	#8 £2	上 7**
基的RC 大力上	3.64) <u>56</u>)3.56	3.57	329	
虐持 77JM (摂津Aのみっこう2)	7,33	\ <u>5</u> 500	4,90	3.45.	· ±
夜に立たない	& I	息と	したて	段階	で I2 垻

目を調査したものであったが、12項目中10項目で5点以上の満足度、有用性が確認された(14)。この調査では、グループで2か月間学習したことにより、母親の仲間意識が促進され、終了後も子育ての相談相手に発展していく例があったことが確認され、長期的には同じグループが再集合できる活動を計画することも有用であると考える。

(5) 今後の課題

トリプルPの特徴は、あらゆる親を対象に設定されていることである。さらにグルPは、客観にで施行するレベル4のトリプルPは、客観を指標を利用した評価を行うことに特徴をもち、集団的評価に基づいて発展してきたるが、個人に評価内容をプログロをもってあるが、個人に評価である。この意味でもないである。この意味でもないであるが、地域、対象、目的を考慮ける必要があり、地域、さらに評価方法の検討を後も必要であると考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

〔雜誌論文〕(計 2件)

1. <u>柳川敏彦、平尾恭子、加藤則子</u>、北野尚美、 上野昌江、白山真知子、山田和子ら:児童虐 待予防のための地域ペアレンティング・プロ グラムの評価に関する研究「前向き子育てプログラム(トリプルP)」の有用性の検討,子ど もの虐待とネグレクト,第11巻,54-68,2009 2. <u>柳川敏彦</u>:虐待発生予防のための保健活動 一欧米の動向からー、保健の科学,第49巻 第1号,47-53,2007

〔学会発表〕(計 7件)

- 1. <u>柳川敏彦、家本めぐみ、平尾恭子、北野尚美、白山真知子、上野昌子ら:児童虐待予防のための地域ペアレンティング・プログラムの評価に関する研究. 第 14 回日本子ども虐待防止学会 2008.12,広島</u>
- 2. 加藤則子、石津博子、益子まり、藤生道子、 塩澤修平、柳川敏彦:川崎市における子育て 支援のためのトリプルPの導入と評価. 第 14 回日本子ども虐待防止学会 2008.12, 広島 3. 志村光一、梅野裕子、加藤則子、始関桃 子、柳川敏彦:Triple P前向き子育てプロ グラム」普及モデルと日本での試み. 第 14 回日本子ども虐待防止学会 2008.12, 広島 4. 加藤則子、石津博子、益子まりら:川崎市 におけるグループトリプルPの取り組み. 日 本公衆衛生学会 2008.11, 福岡
- 5. 益子まり、石津博子、鈴木昌枝、<u>加藤則</u>子:川崎市におけるグループトリプルPの取り組み. 第 55 回日本小児保健学会,2008.4, 北海道
- 6. 加藤則子、蓮 桃子、柳川敏彦ら:前向き子育てプログラムの試行的実践とその評価.第 111 回日本小児科学会, 2008. 4,東京7. 北野尚美、柳川敏彦、中村安秀、平尾恭子、吉川徳茂:日本人家庭における親から子への不適切な行為に関する研究. 第 13 回日本子ども虐待防止学会, 2007. 12,津市

〔図書〕(計 1件)

1.・マッシュ・R・サンダース(著)、柳川敏彦、加藤則子監訳): エブリ・ペアレント 読んで使える「前向き子育て」ガイド. 明石書店,東京、2006

[その他]

ホームページ

・トリプル P ジャパン ホームページ http://www.triplep-japan.org/index.html

6. 研究組織

(1)研究代表者

柳川 敏彦:和歌山県立医科大学保健看護学部・教授 80191146

(2)研究分担者

加藤 則子:国立保健医療科学院研修企画部・部長 30150171

上野 昌江:大阪府立大学看護学部・教授 70264827

平尾 恭子: 大阪府立大学看護学部・講師 20300379

山田 和子:和歌山県立医科大学保健看護学部・教授 10300922 (18-19 年度)

(3) 連携研究者

山田 和子:和歌山県立医科大学保健看護学部・教授 10300922 (20 年度)